



宇都宮市立錦小学校 学校だより

にしきの子

第7号 令和7年11月7日 発行者 校長 大森 信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

2学期始業式

10月16日（木）、業間に始業式

を行いました。児童には、どんなに小さな努力でも、根気強く続ければ、大きな成功につながるという意味のことわざ「雨垂れ石を穿つ」についての話をしました。2年・4年・6年の3名が、児童を代表して、2学期の抱負について発表しました。学習面やクラブ、習い事などで、具体的に頑張りたいことを堂々と述べることができました。



小学生陸上競技大会

10月28日（火）、第52回宇都宮市小学生陸上競技大会が、カンセキスタジアムとちぎで開催されました。本校を代表し、大会に出場した児童は右の通りです。当日は、日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。

種 目	学年	氏 名	種 目	学年	氏 名
男子100m走	5年	今村 伊織	女子100m走	5年	鈴木あやの
	5年	出井 輝		5年	橋本 愛梨
	6年	山本 龍輝		6年	
	6年	坂本 朝陽		6年	植木ひまり
男子高跳び	5年	山本 晴輝	女子高跳び	5年	秋元 美苑
	6年	郡司 朔也		6年	
男子幅跳び	5年	岩崎湊太郎	女子幅跳び	5年	佐々木琴音
	6年	手塚 雄大		6年	鈴木 陽葵
5年男女混合4×100mリレー		今村 伊織, 稲葉 優, 佐々木琴音, 秋元 美苑			
6年男女混合4×100mリレー		坂本 朝陽, 郡司 朔也, 鈴木 陽葵, 植木ひまり			

錦まつり（PTA文化祭）



11月1日（土）、PTA主催の「錦まつり」が開催されました。生活科室では体育着の販売、PTA室では、「かたりいず」の皆様による読み聞かせ会と糸引きアメの販売、体育館ではビンゴ大会、校庭では、育成会の催し物や部活動体験会、お囃子の演奏・体験会などが行われました。盛りだくさんの催し物で、とても充実した錦まつりとなりました。PTA執行部をはじめとした関係の皆様には、これまで多くの時間をかけて準備をしていただきました。大変お世話になりました。

就学時健康診断・保護者説明会

10月22日（水）、次年度、本校に入学予定のお子様の心身の状況を把握し、保健上必要な助言等を行うための健康診断を行いました。待ち時間を利用し、保護者の皆様には、入学までの予定や準備等について、学校をはじめ、PTA、子ども会育成会、子どもの家の担当者から説明がありました。皆様、ご協力ありがとうございました。



学習がんばり週間

11月10日（月）～11月21日（金）は、第2回学習がんばり週間です。児童は学習がんばりカードを活用し、自分で目標を決め、意欲的に家庭学習に取り組みます。保護者の皆様からの温かな見守りや確認がとても重要で、児童には大きな励みとなります。期間中はもちろんですが、日頃からの協力をお願いいたします。



茶道体験教室

10月30日（木）、北校舎1階生活科室で、6年生を対象に茶道体験教室を開催しました。児童は、畳が敷かれた教室で、本格的な道具を用いた茶道の作法を直に体験することができました。講師は、岩上様、亀井様、竹中様と本校職員の柴田学校支援担当の4名の皆様です。大変お世話になりました。

秋の校内読書週間

10月20日(月)～11月1日(土)を読書週間とし、様々な企画を実施しました。読書への関心を高めるため、図書委員による「図書室クイズラリー」や「図書館くじ引き」、本の貸出の仕事体験できる「図書委員体験」、図書委員が各クラスで読み聞かせを行う「ふれあい読書会」、本に出てくるメニューを給食で再現する「おはなし給食」などです。「おはなし給食」の本は、10月29日(水)が「ぐりとぐら」、11月6日(木)が「給食委員はアイドル」です。

第61回 錦地区体育祭

10月12日(日)、爽やかな秋晴れの下、第61回錦地区体育祭が本校を会場として盛大に開催されました。各自治会を代表して多くの児童が参加しました。元気溢れる一生懸命な姿が随所に見られ、体育祭を大いに盛り上げていました。



第19回 錦文化祭

10月16日(木)～18日(土)、錦地域コミュニティセンターで錦文化祭が開催されました。文化祭は、16日から作品展示や日替わり企画を開催し、本校児童の作品も数多く展示されていました。当日は、児童の作品を多くの方々に見ていただくことができました。錦小PTAの模擬店では、児童も飲料水の販売を手伝っていました。皆様、大変お疲れさまでした。



われいまだ木鶏たりえず～昭和の大横綱双葉山より～

相撲界に、双葉山という力士がいました。69連勝を成し遂げた昭和の大横綱です。この双葉山という力士が、70戦目で敗れたとき、師の安岡正篤(まさひろ)氏に、「我いまだ木鶏たりえず」と電報を打ったそうです。第35代横綱双葉山は、優勝12回(当時は年2場所制)、昭和11年1月場所の7日目両国を破ってから、昭和14年春場所4日目安芸の海に敗れるまで69連勝、4年間1度も負けていないことになります。69連勝中の横綱が、前頭3枚目の安芸の海に負けた時は、日本中に号外が出るほどの大事件であったそうです。この歴史的な一番をラジオ放送していた和田信賢アナウンサーは、「双葉山散る、双葉散る…」と10回くらい絶叫し、「双葉山70連勝成らず。人生70古来稀なり」という名台詞を残したそうです。「我いまだ木鶏たりえず」は、次のような故事に由来しています。



～昔の中国に、紀省子という闘鶏(ニワトリどうしが闘う競技)を訓練する名人がいました。ある日、王様から一羽の鶏の訓練を仰せつかりました。10日たって王様が、「どうだ、そろそろ戦えるようになったか」と尋ねると、「まだです。今は殺気立って、しきりに敵を求めています。」と答えました。また10日たち、王様が尋ねると、「いや、まだです。他の鶏の声をみると、たちまち闘志をみなぎらせてしまいます。」さらに10日がたち王様が尋ねると、「まだ駄目です。他の鶏を見ると、にらみつけたり、いきり立ったりしてしまいます。」さらに10日たって王様が尋ねると、「もう大丈夫です。他の鶏がいくら挑発してきてもいっこうに動じません。まるで木彫りの鶏のようです。徳が身につけている証拠です。こうなれば、どんな鶏もかきません。姿を見ただけで逃げ出してしまうでしょう。」と答えました。そして、実際に闘わせてみると、他の鶏は、本当に闘わずして逃げ出してしまったということです。～



双葉山の師で、戦後の政治家に多くの影響を与えた安岡正篤氏は、「人間は、面よりも背のほうが大事だ。徳や力というものはまず面に現れるが、それが背中、つまり後ろ姿(肩背)にあふれるようになってこそ本物である。後光がさしている状態。人を観るには前より後ろから観るのが良い。前はつくろえるが、後ろはごまかせない。後姿が寂しいのはよくない。後姿が立派だと言われるようになれば、人間が出来たということだ。」と語っています。

本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ

